～長崎の英国人紹介～

長崎外国語大学現代英語学科 准教授

こんにちは！クリシュです！

初めまして。

私は長崎外国語大学現代英語学科の准教授をしていますクリシュ・クマーと申します。出身はウェールズという国です。多くの方がこの国についてよく知らないと思いますので、今回紹介させていただきます。ウェールズは英国の西部、イングランドの隣にあり、山が多く深い緑色を持つ森林や美しい海岸（ビーチ）が沢山あります。首都カーディフの中心にはとても大きいお城があり、ほとんどの町や都市の中心部、近隣にもお城があります。

「英国の食べ物」と聞くと、ステレオタイプとして紅茶やアフタヌーンティー以外は味気がなく不味いイメージがあるかと思いますが、英国にも美味しいものは沢山あります。そこで、ウェールズの美味しい二つの料理について紹介したいと思います。

一つ目はラバーブレッド（Laverbread）という食べ物です。ブレッドといってもこれはパンではなく、ペースト状の青のりです。オートミールと混ぜて成形して焼き、ベーコンや貝と一緒に頂きます。二つ目はグラモーガン・ソーセージという料理です。ソーセージと言っていますが肉や腸皮は使用しておらず、ケアフェリチーズとリーキ（西洋ネギ）、パン粉を使った料理で、たまにリーキの代わりにねぎや玉ねぎを使います。ウェールズを訪れた際は是非食べてみてください。

私たちはウェールズ語という独自の言語を持っていますが、独自のスタイルの英語も持っています。例えば、多くの人、特に若い人たちが「lush」という言葉を使いますが、これは形容詞で、きれい、素晴らしい、良い天気という意味になります。日本人が「良い」を様々な用途で使う場面をよく耳にしますが、これと同じような使い方ができるかもしれません。

日本について書かれた本やガイドブックの多くは、関東や関西を中心に書かれているので、「なぜ長崎に来たのですか」とよく聞かれます。私は学生時代、歴史の授業で日本への核攻撃について学びました。その後、大学で原子核物理学を学び、長崎で何が起こったのかを詳しく学びました。そんな話を聞いて、ぜひ一度長崎を訪れてみたいと思うようになりました。三年生のときに長崎に留学する機会があり、その際にすぐに馴染むことができてこの国が好きになりました。長崎は山が多く、海が近く、人々は礼儀正しく、とても歓迎され、フレンドリーなところが、故郷であるウェールズと似ています（しかし、長崎はウェールズと比べると天気はずっと暖かく、雨が少ないです）。

大学院を卒業し、宮崎で一年間働いた後、幸運にも今の仕事を得ることができ、大好きな長崎に来ることができました。

長崎は、大阪や東京から遠く離れた場所に位置しているため、外国人から見過ごされがちだと感じています。しかし、日本史の中で最も重要な歴史的出来事のいくつかは、この地と深く関係があります。鎖国時代以前と以後の外国人の来訪をはじめ、この地で始まった外国学問の普及もあります。また、出島を通しての外交、そして日本の鉄道の知識もこの地で始まりました。

この地で生活し、働くことができることは非常に光栄なことであり、長崎の人々に感謝しています。

新規会員募集中！

長崎日英協会では新規入会の会員を募集中です。会員の皆さま方の中でご紹介いただける方がいらっしゃいましたら是非ともご加入をお奨めいただきますようよろしくお願いいたします。

年会費	個人会員	５，０００円
	法人会員	１０，０００円

編集・発行/長崎日英協会（株式会社長崎経済研究所内）
住所：〒850-8618　長崎市銅座町１番11号　十八親和銀行本店内
担当者：山口・中尾・柄本
TEL:095-828-8859　FAX:095-821-0214